



# 学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukuyadai>

令和3年11月30日

## 12月号

横浜市立横浜深谷小学校

校長 角井 治朗

## 「想（おもい）」について考える機会に

校長 角井 治朗

冷たい北風に本格的な冬の到来を感じる頃となりました。

11月15日、16日と延期になっていた6年生の日光修学旅行を無事に実施することができました。感染症の広がりについては落ち着いた状態ではあるものの、実施に当たっては様々な対策、多くの制約の中での実施となりました。しかし、そのような状況の中での実施であることを子どもたち一人ひとりがしっかりと意識し、学校の代表としての自覚と思いやりをもった行動を心掛けることで、充実した2日間を過ごすことができたと思います。そんな6年生の姿をお世話になった宿の方々、観光バスの乗務員の方々、すれ違った観光客の方々等に褒めていただく場面が多々あり、大変うれしく、また誇らしく思いました。また、11月は1年生の校外学習、3年生のお店見学なども実施され、12月初旬には俣野公園での全校ウォークラリーを予定するなど、これまでなかなか実施できなかった、まちに出ていろいろな方々と触れ合う機会も少しずつ増えています。人との豊かな関わりは、本校が目指す「ふれあい、学び合い、認め合う子」の育成には欠かせません。引き続き状況をしっかりと見極めたり対策を考えたりしながら、活動を広げていきたいと考えています。

さて、横浜市立学校では、「だれもが、安心して、豊かに」生活できる学校をめざして、「想（おもい）」をテーマに取り組んでいます。「想」という字は、「相」と「心」からなることから、“相手と心から向き合うこと”を子どもたちに育んでいく大切な視点として掲げています。様々な人々の思いを感じたり想像したりすること、また、それらを受け止め、寄り添う心情を育てることは一朝一夕にできることではありませんが、子どもたちにとっては、まず自分自身が思いを受け止めてもらい、寄り添ってもらった経験こそがその大切な土台になるはずで、多くの人たちと関わる中で、たくさんの人たちに受け入れられ、認められた経験は、子どもたちの成長の大きな一歩になると感じます。また同時に、このような特別な場ではなく、毎日交わすあいさつ一つをとっても、相手と心から向き合うことができる瞬間は日常にあふれています。それらをいかに意識化したり、行動につなげたりすることができるかが大切です。

本校では、12月7日から10日までが人権週間です。「相手と心から向き合う」とはどういうことを成長に合わせて考え、これまでを振り返ったり今後に生かしたりする、そんな機会にしていきます。そのためにも、まず、私たち教職員が子どもたちにしっかりと寄り添えるよう心がけていきたいと思っています。